

誤用例の研究

－ 中国語を母語とする日本語学習者の場合（Ⅱ）－

藤 田 昌 志

A Study of Error Cases of Japanese Language Learners Whose Mother Tongue Is Chinese : Part II

FUJITA Masashi

〈Abstract〉

While teaching Intermediate Japanese Language Composition for foreign students at the Center for International Students, MIE University, during the second semester of 1998, I collected errors from six Japanese Language learners whose mother tongue is Chinese, occurring in their compositions on six topics. I classified the errors into six error cases, as follows :

- I. Errors produced because students think only the correspondence in vocabulary between Japanese and Chinese.
- II. Errors produced because particles are omitted or misused.
- III. Errors produced from 'confusion. 'Students produce errors after studying Japanese in the Elementary Japanese Language course, but the source of the error is uncertain.
- IV. Errors produced because of direct translation from Chinese into Japanese.
- V. Errors due to other reasons for misuse of expressions.
- VI. Errors produced because of the difference in custom of expression between Japanese and Chinese.

キーワード : 誤用、“搭配”、混乱、直訳、表現上の習慣

二－ 4 「私の国の教育」の誤用例の分類と分析

I については既述のものと重複するものなどを除外すると特に取り上げるべきものはない。

II 助詞の脱落、誤用によって生じた誤用

- ① 「十年で（（削））寒い窓の下で必死になって勉強する」という話（（変）ことば）（S）
“ “十年寒窗苦” 这句话”

中国語の文章では修辭的に“成語”(＝熟語、成句、ことわざ)をちりばめないと、よい文章とは評価されない。それは歴史を重んじる国民性に基づくものでもあり、又、歴史の知識の具体的現れとしての“成語”の運用力が支配者、指導者に求められるという中国的な「現実主義」の存在を示唆しているのであるが、ここで使用されている“十年寒窗”(shí nián hán chuāng)とは「長く家に閉じこもって勉学に励む」⁽⁵⁾という意味の“成語”である。その中の期間を表す「十年」のあとに「で」をつけてはいけない。

- ②普通の人は中学校((付)を)卒業する時は16才になりました((変)なります)。(W)
“～初中毕业时一般为15, 16岁。”

「中学校に入学する／中学校を卒業する」の、「入る」類に対する「出る」類の場合には助詞「を」を付加しなければならないのに付加していない誤用例である。

- ③中国の小学((付)校)は昔は5年でしたが、今((付)は)6年です。(L)
“中国的小学以前是5年, 现在是6年。”

「対比」の意味の助詞「は」を付加しないので誤用となっている例である。

Ⅲ 「混乱」による誤用

- ①大学は4年間((付)の)もあるし、3年間((付)の)もあるし2年間((付)の)もあります。(C)
“大学有4年的, 3年的, 也有2年的。”

中国語に“～的”があるのに、日本語では「～の」を付加していない。中国の大学について書かれた文であるが「混乱」によるものであろう。

- ②とにかく中国((削))教育は国家の大切なもの((変)大事)です。(L)
“总之, 教育是国家的大事, ～”

“国家大事”というのは熟した中国語の表現で直訳的には「国家の運命に関わる重要な出来事」という意味である。「混乱」は「こと」と「もの」の誤用にあらわれているが、そのまま「大事」とすればいいのにしていないことにもあらわれている。

Ⅳ 直訳によって生じた誤用

- ①でも、今は就職が前よりむずかしくなったので、皆さんは ((変)多くの人が) 高校に入りたいです。(C)

“但是，由于现在就业比以前难，所以大家都很想读高中。”

“大家”をいつでも「皆さん」としか対応しないものと思っているとこうした誤用が生じる。

- ②学生の家の ((変)に) 近いところに従って ((削)) 学校に配属します ((変)振り分けられます)。(S)

“～，按照离学生家近的原则来分配学校。”

中国語の“分配”は直訳はたしかに「配属する」であるが、この場合には「学生」が主語なのであるから「振り分けられる」とした方がよい。又、受身になっていないことも誤用となっている。

- ③～高校に入ると3年間、緊張して ((変)気をゆるめず) 勉強することになります。(R)

“～所以进入高中就面临着三年紧张的学习，～”

“緊張”をそのまま「緊張する」と日本語にしてしまった誤用例である。「(高校時代) 気をゆるめない」という意味であるからそのように変えなければならない。“緊張”を安易に前後の“搭配”を考えずに使用する誤用例はよく見受ける。

Ⅴ その他の表現上の誤用によって生じた誤用

「です」「ます」体と「だ」体を混ぜて使う誤用というもの時々、見られる。(どこまでを誤用と見るかは微妙な問題を含んでいるので今回は一々とりあげない。)

Ⅵ 両言語の表現上の習慣の相違によって違和感を感じることから、一応、誤用に分類される誤用

Ⅱ－①でとりあげたが“成语”を文章の中で用いるのは良い中国語の文章を書く際の基本的なレトリックであろう。問題はそれを直訳してもあまり効果がない場合があるとい

うことで、そうなると表現上は日本人の生み出した「漢文訓読法」を混ぜて用いた方がいいのではないかということになってくると思う。

二-5 「映画」の誤用例の分類と分析

I の“搭配”関係の誤用例には次のようなものがあった。

- ① (中国の映画館は(筆者注)) 人数が少ないとき、席がたくさん空いていますが、自由に好きな席さえ ((変)を) 選ぶことができます。(W)

“人少的时候，座位大多空着，这时甚至可以根据自己的喜好，自由地这样座位就坐。”

“甚至”をそのまま“～さえ”に対応させたことによる誤用であろう。語の対応の次には文の中での対応へと向かわなければならない。

II 助詞の脱落、誤用によって生じた誤用

- ①彼は ((変)が) 主演した「紅番区」とか「Who am I」とか ((付)は) 私は ((変)が) 好きな映画です。(C)

“由他主演的《红番区》《我是谁》等，都是我所喜欢的影片。”

名詞修飾内での主体は「が」で表現しなければならないのに「は」としている誤用例である。中国語では implicit (非明示的) であることによる誤用であろう。

- ②特に面白い映画を ((変)は) 何回 ((付)も) 見たこともあります。(W)

“特别有趣的电影甚至看过两、三遍。”

“甚至～”であるから「数量が自分の予想より、あるいは世間の常識より多いことを強調する」^⑥「も」を付加した方がよい。又、「映画」は提題化し「は」を付加した方がよい。

III 「混乱」による誤用

- ①「タイタニック」は最近の ((削)) いい ((削)) 評判があった ((変)よかった) 映画でした ((変)です)。(C)

“最近，《泰坦尼克号》是一部很受好评的影片。”

“人们对他颇有好评。”が「彼は人々の間でたいへん評判がよい。」という日本語と対応することを考えれば“有好评”から「いい評判がある」(誤)(cf.「評判がいい」(正))という表現が生じたのかとも考えられるが、上記の誤用例では“受好评”が対応する中国語であるから「いい評判を受けた」(誤)という誤用表現が生じるとしか考えられない。脳裏をよぎった“有好评”によって生じた「いい評判がある」(誤)という誤用表現であろうか。それなら「混乱」による誤用である。又、“有名的作品”(「評判の作品」(日))からも(cf. 一字一字の意味を重んじようとする中国語の特徴)「ある」という表現が誤ってでてしまったのかもしれない。外国語(この場合、日本語)の一つの表現は母語(この場合、中国語)の二つ以上の表現と対応することがある。そこに「混乱」(外国語表現と母語表現の誤った対応による)の生じる余地が生まれる。

②主人公の奇怪千万な((変)数奇な)運命にはだれでも感動できるようになりながら((変)感動して)思わず涙を流すと思っています(流してしまいます)。(R)

“我觉得面对主人公离奇曲折的命运，任何人都会被打动，情不自禁地流下眼泪，～”

「感動できるようになりながら」(誤)と可能形を使っているのは中国語の“会”を可能形に訳してしまったからである。“会”の蓋然性の意味の方をとれば「感動し」となり正しい表現となっていたことであろう。中国語の表現に二つの意味があって、それに対応する日本語の表現をとりまちがえた「混乱」による誤用例である。

IV 直訳によって生じた誤用

①私は((変)が)日本へ来るの((削))ちょっと前に、中国ではじめて上映されました。(C)

“～，就在我要来日本之前，中国才刚刚开始上演，～”

「日本へ来るの((削))ちょっと前」の「の」は削除しなければならない。⁽⁷⁾ 名詞修飾の修飾部分などでよく見られる直訳による誤用例である。

②国にいたとき、つねに((削))友達といしょうに((変)いっしょに)よく映画を見に行きます((変)見に行きました)。(W)

“在国内的时候，经常与朋友一起，到电影院去看电影。”

過去の習慣的動作を表す場合、中国語では過去形を用いないが日本語では用いる。⁽⁸⁾ その違いの理解がないことによる、直訳による「～見に行きます」という誤用である。

V その他の表現上の誤用によって生じた誤用

- ①喜劇はおもしろくて、結局 ((変)ラスト) もよくて、見たら気持ちいいです ((変)楽しくなります)。(C)

“喜剧幽默且均有很好的结局，看了以后心情会很好。”

“心情很好”という中国語の表現を「気持ちがいい」という日本語の表現と固定的、単一的に対応させたことによる誤用例であろう。「一（母語）対二又は多（外国語）」の問題をクリアできなかったことによって生じた誤用例であろう。

- ②ときどきその映画の内容に深く感動されて ((変)感動して)，～ (W)

“时时为剧中的情节而深深地感动，～”

「感動させられる」（使役・受身）は「感動する」と同じ事実を表現しているのであるが、中国語では使役表現が明示的に表現されないことがある。そのことによる誤用であろう。⁽⁹⁾

VI 両言語の表現上の習慣の相違によって違和感を感じることから、一応、誤用に分類される誤用

- ①（アクション映画は）勇気も比べ ((変)比べ合い) ますし、知恵も比べ ((変)比べ合い) ますし、（感動させる映画だと思います。）(C)

“～动作片斗智斗勇，扣人心弦～”

中国語では“斗智斗勇”“扣人心弦”といった成語を用いることによって文章に減り張りをつけることはすでに述べたが、ここでもそのことが言える。この場合、必ずしも誤用とは言いきれないが不適とは言えるであろう。ともあれ、中国語の文章の特徴について注意しておく必要はあるであろう。

- ②主人公の奇怪千万な ((変)数奇な) 運命にはだれでも感動し（筆者注：変更後の文、既述）、思わず涙を流してしまいました。(R)

“我觉得面对主人公离奇曲折的命运，任何人都会被打动，情不自禁地流下眼泪，～”

「奇怪千万な」は大げさすぎる。「数奇な」ぐらいでいいであろう。中国語の成語をどのような日本語と対応させるかの問題である。日本語では現在、大仰な表現（ある意味で漢語的表現）を好まず、表現自体のひらがな化、カタカナ化が一つの傾向としてある。そのことにも注意しなければならない。

二－6 「日本での生活」の誤用例の分類と分析

I 日本語と中国語の語彙的対応しか考えておらず、統語、呼応表現、“搭配”（＝語と語の「組み合わせ」）への配慮がないことによって生じた誤用

①バスが少しだけある（（変）少ししかない）ので出かける時、車がない人はだいたい自転車を利用します。（H）

“因为公共汽车也很少，所以出门的时候，没有汽车的人多数骑自行车。”

日本語的表現「しか～ない」を使えず、“少有”を「少しだけある」とした誤用例である。初級文型、表現の未定着を意味しているのであろうか。⁽¹⁰⁾

II 助詞の脱落、誤用によって生じた誤用

①部屋の窓の近いところは（（変）に）桜があります。（C）

“在我房间的窗户的不远处有些樱花。”

誤用例と言えるかどうか文脈によっては微妙であるが「～に～があります」という初級文型の定着の有無という点からは誤用例である。こうした「微妙な誤用例」は中級前期では多く存在する。

III 「混乱」による誤用

①私もこんな生活からたくさん知識（（変）のこと）を勉強したと思っています。（C）

“我也认为我从这样的生活中学会了许多东西。”

“東西”であるから「もの」とすればいいものを「知識」としている。混乱による誤用であろう。あえて直訳をずらせようとする意識がかえって誤用を招くのであろうか。

②四日市で((変)には) レストランがたくさんあって、料理もおいしいです。(S)

“四日市的饭馆很多，味道也不错。”

動作の行われる場所や範囲を表す「で」と存在の場所を表す「に」の使い分けにおける「混乱」であろうか。「で」には何かが「起こる」「行われる」意味の表現のとき(ex, 「来週、学校でコンサートがある」既述)に、その「起こる」「行われる」場所を表す用法もあるから「混乱」が生じやすいと言えるであろう。

IV 直訳によって生じた誤用

①津市はあまりおおきくなくて、あまり繁華((変)にぎやか) じゃない町だけど、きれいで静かです。(C)

“津市虽然不大，也不繁华，然而都是一个整洁而安静的城市。”

「繁華街」から連想したものか「繁華」をそのまま使っているが、和語の「にぎやか」を使った方が前後の表現とマッチするであろう。

②県の図書館へできるだけ行こうと思います。というのはその文化雰囲気((変)雰囲気)が大好き((付)なの)です。(W)

“我仍想尽量抽时间去县图书馆，因为那里的文化气氛是我十分喜欢的。”

“文化雰囲気”というのは直訳であるが少し大げさすぎる。「雰囲気」ぐらいでいいであろう。

③津は三重県の首府((変)県庁所在地)ですが、とても小さい町です。(H)

“津是尽管是三重县的首府，但这是一个相当小的城市。”

中国語の“首府”は「(元来は)省政府の所在地。(現在は多くの場合)自治区や自治州の政府所在地。区都。州都。」⁽¹¹⁾のことを指すが、それをそのまま使用したための誤用例である。行政単位等の名称の異同は教える側、学習する側双方、注意する必要があるであろう。

④土曜、日曜もアルバイトがあります。週末の概念はほとんどなくなりました。((変)

週末ということばは私の生活にはありません。)(L)

“星期六，日也要打工。週末的概念几乎完全消失了。”

意味はわかるが、日本語の表現として何かしっくりこないという直訳例の典型である。その際、一般的に言えることであるが「概念」(日)と“概念”(中)の使用上の落差というものがいつも問題になる。漢語と和語を繊細に使い分ける日本語と、その本源として漢字のみで押していく中国語の違いについては今後、研究を進めていく必要があるであろう。

V その他の表現上の誤用によって生じた誤用

①もし自転車もなければ困ります。(変)困ったことになります。)(H)

“如果连自行车也没有，那就比较麻烦了。”

「～になります」の前の「～」には名詞、ナ形容詞が入るものであるのに動詞が入っている。それが誤用になっているだけでなく、“麻烦”という中国語を含む上記の表現をどういう日本語表現と対応させたらいいかがわからなかったために生じた誤用例であろう。

VIは特になし。

二－7「買物」の誤用例の分類と分析

I 日本語と中国語の語彙的対応しか考えておらず、統語、呼応表現、“搭配”(＝語と語の「組み合わせ」)への配慮がないことによって生じた誤用

これについては特に見あたらなかった。作文も五つ六つのトピックをこなしていくと、書き手の間違いが減っていくように思われる。

II 助詞の脱落、誤用による誤用

①店の中は人が普通の日より二、三倍に((削))多くなりました。(W)

“商店里人非常多，大约是平日的两到三倍，十分热闹。”

「変化」の意を表す「～になります(なりました)」と混同したのであるか、二－2「旅行」のⅡ－①でも取りあげたが数量表現のあとに助詞を付け加えてしまう誤用例はよく見かける。

Ⅲ 「混乱」による誤用例

- ①いろいろな種類がありますが、どんな商品を比べる（(変) えらんだらいい）のかなか決め（(付) られ）ませんでした。（W）

“由于商品品种非常多，无法决定到底选择哪种商品。”

対応する中国語は“选择”であるから、すなおいに日本語を「選ぶ」としたらいいのにそうしていないことによる誤用である。語彙の拡大とともに発音の似た語を誤って使用してしまうということなのかも知れない。

Ⅳ 直訳による誤用

- ①和服は日本の民族服装（(変) 伝統衣裳）ですから母に和服を買ってあげた（(付) い）と思います。（S）

“和服是日本的民族服装，我想买一件送给母亲，～”

「民族衣裳」ということばはあるが「民族服装」ということばはない。「伝統衣裳」ぐらいが穏当なところであろう。

- ②父は高血圧があります（(変) 高血圧な）ので、電気製品売場で血圧計を買いました。（S）

“父亲有高血压，所以在卖电气产品的地方买了血压计，～”

典型的な直訳による誤用であろう。中国語は“有高血压”であるが、日本語は「高血圧な（ので）」としなければならない。

- ③もう冬になりましたのでマフラーは十分てきとうだった（(変) いいプレゼントだった）と思います。（W）

“已经入冬了，我想围巾一定是十分合适的。”

意味は通じるが、直訳ではしっくりこない。また、学習者が表現のプロトタイプを得る方策を提示する必要があることを痛感する。

V その他の表現上の誤用

①お正月がはやくくるのを首を長くして待ちます((変) 待っています)。(S)

“新年快点到来，我正翘首以盼”

前からの心の状態に焦点を当てて言うのであるから「待っています」に変える必要がある。

VIは特になし。

【注】

(5) 『汉语成语小词典』(1973) 商务印书馆 p. 200

(6) 同(4) 寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版 p. 77

(7) 藤田昌志(1994)「中国語を母語とする日本語学習者の誤用について」『龍谷大学国際センター研究年報』第3号 p. 67

(8) 岡部謙治(1990)『この中国語はなぜ誤りか』光生館 pp. 83-85

(9) 同(7) p. 72

(10) 孔凡・艾廉鏊編著(1993)『日語词语搭配手册』知识出版社では日本語の“搭配”を大きく16に分類しているが§2. 否定呼応句型では次のようなものを例として提示している。同様に注意を払う必要があるであろう。「一概に～ない」「未だ～ない」「かつて～たことがない」「さっぱり～ない」「とうてい～ない」「二度と～ない」「別に～ない」「まんざら～ない」「ろくに～ない」等。他の“搭配”の分類は次のようなものである。§1. 断定呼応型(ex. たしか～(た)はずだ.) §3. 比喻呼応型(ex. あたかも～ようだ) §4. 因果関係呼応句型(ex. ～からこそ～のだ) §5. 推測呼応句型(ex. おおかた～だろう) §6. 意願呼応句型(ex. きっと～てみせる) §7. 条件呼応句型(ex. いくら～ても～ない) §8. 並列呼応句型(ex. ～か～か) §9. 取捨呼応句型(ex. ～であって～ではない) §10. 程度呼応句型(ex. それほど～ない) §11. 時間呼応句型(ex. あやうく～ところだった) §12. 起止呼応句型(ex. ～から～にかけて) §13. 疑問呼応句型(ex. なぜ～のか) §14. 托情呼応句型(ex. どうか～てください) §15. 感動呼応句型(ex. ～よう～てください)

(11) 北京・商務印書館 小学館共同編集(1992)『中日辞典』小学館 p. 1313